

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 川本恵子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

獣医学科病態獣医学系の教員に所属し、主に獣医学科の学部生を対象に微生物学（病原細菌と病原真菌）に関する基本的な専門知識と技術を教えている。微生物学では、感染症の原因としての病原微生物学を中心に、耐性菌問題や動物の体表や腸管で共生する細菌による常在細菌叢による恒常性の維持やその破綻による疾病なども扱う。

また、動物応用科学科の学生に対し、感染症概論、代表的な細菌性人獣共通感染症、食品媒介感染症を講義している。

研究室所属生への研究指導では、卒業研究は様々な能力を必要とするアクティブ・ラーニングであるため、主体的に考える力、論理的思考力、創造性、問題解決力、学生同士で協力し合う姿勢とコミュニケーション能力の習得を導く。また、生涯学習に必要なスキルを教える。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医微生物学総論	獣医学科	必修	2	150
獣医微生物学各論Ⅰ	獣医学科	必修	2	150
獣医免疫学	獣医学科	必修	3	150
獣医微生物学実習Ⅰ	獣医学科	必修	3	150
総合臨床実習	獣医学科	必修	5	150
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	2
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	5	6
総合獣医学	獣医学科	必修	6	150
卒業論文	獣医学科	必修	6	6
微生物学	動物応用科学科	必修	2	150

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

獣医師が活躍する分野は、臨床だけでなく、食品衛生や食肉衛生、フードセキュリティ、越境性動物疾病や人獣共通感染症の制御、環境保全など幅広く、また、近年の微生物学や感染症学の広がりや獣医師の役割に広がり直結し、獣医師に対する社会のニーズは年々多様化している。また、獣医学生は多くの動物をその対象とし、必然的に医学生よりも多くの微生物種を学ぶ。しかし、その専門教育を受けるのは日本の全大学生290万人のうち、約0.03%と極めて少数である。獣医師国家試験に合格することは重要だが、そのための暗記教育に終始することなく、「微生物学の基本的な専門知識・技能の定着」から「活用」そして「創造」と「生涯学習」へ繋がる教育を常に意識し、キャリア形成において遭遇する様々な局面での課題発見能力や問題解決能力のある人材育成を目指している。

動物応用科学科の学生に対しては、まず感染症や微生物に対する興味を持ってもらえるような身近な話題を使って解説し、入口は低くしながら、新聞やニュースにはない視点での専門的見地を伝える。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

- 微生物学におけるDay Oneコンピテンシー（卒後1日目の獣医師に必要な知識と技能）を設定し、6年かけて卒業までに目指すレベルを最初に伝える。
- 微生物学は後の学年で学ぶ多くの科目と関わり、それらの科目を深く理解するための土台（ファウンデーション）の一つである。講義の冒頭に、担当科目について、それを学ぶ意味と他の科目との関連性を説明し、体系的な学習をサポートで切るよう心がけている。
- まずは興味を持ってもらえるよう、そして専門用語や略語の洪水で学生を押し流してしまわないよう、最初から細かいことは説明せず、特に講義の前半はとりかかりやすいよう平易な言葉を心がけ、時間を長めにとって説明している。また、重要項目について、小テスト等で学生の理解度をモニタリングし、少しずつ授業のスピードと難易度を上げていくようにしている。
- 膨大な知識量の取得を要する微生物学の海で学生が溺れたり、方向性を見失うことがないようガイドしていきたい。一方で、微生物学を単なる暗記科目と誤解しないよう、創造性のある学問領域であることを意識してもらえよう最新の文献情報なども取り入れている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

小グループディスカッション、PBL、ケーススタディ、学生プレゼンテーション&学生同士でピアレビュー、ICTを用いたAL(Moodleでの事前課題や復習小テスト)

（2）ICTの教育活用

有

ICTを用いたAL（Moodleでの事前課題や復習小テスト）、授業中のリアルタイム投票（Google FormやMeet等）

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義中に症例や実際の事例を提示し、病因の推定、診断手法の選択、感染対策の考察などについて、学生同士での討議や意見共有を行う機会を設けている。検査手技や実験操作を単に手順として習得させるのではなく、検査目的や結果の解釈までを含めた問題解決型学習を導入している。授業資料の事前配布やオンライン教材の活用により予習・復習を促し、授業時間を知識整理および応用的思考に充てることで学習効果の向上を図っている。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義後の復習小テストや確認問題を通じて学生の理解度を随時把握し、結果を踏まえて解説内容を調整している。実習では、検査結果の解釈や判断理由を学生に説明させることで理解状況を確認している。さらに、提出物や質問内容を分析し、理解が不十分な項目については次回授業で補足を行い、CBTおよび国家試験を見据えた知識の定着を図っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業資料を事前に配布し、予習を前提とした授業を実施。講義中の確認問題や課題を復習に活用させ、授業後の自学自習を促している。実習では目的を事前に示し、必要な内容を学生自身が調べて準備するよう指導している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

授業前後や実習中に学生からの質問を受け付け、理解度や疑問点に応じて個別に説明を行っている。また、メールやオンラインツールを通じた質問にも対応し、授業内容に関する疑問を早期に解消できるよう努めている。多く寄せられた質問については次回授業で共有し、理解の向上を図っている。ただし、学生からの質問はそれほど多くない。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義中に確認問題や症例提示を行い、学生に考えを求めたうえで意見共有や解説を行うなど、学生参加型の授業運営を行っている。また、実習では結果の解釈や判断理由を学生に説明させ、教員との対話を通じて理解を深めている。学生からの質問や反応を踏まえ、授業内容を適宜調整している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

2年次より担当科目内で関連分野の国家試験問題を取り上げ解説するとともに、担当科目の定期試験は国家試験形式に準じた内容と難易度で出題している。また、国家試験対策には一夜漬けでは対応できず、日頃の継続的な復習が重要であることを指導し、学習習慣の定着を図っている。6年次の総合獣医学では頻出事項や重要用語に重点を置き、解答の考え方を中心とした実践的な指導を行っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

解説しなくてはいけない内容が多く、つい早口になっているので、ゆっくり話すよう心がけた。それ以外はおおむね高評価であったので、質を落とさず、より多くの学生が関心を持てる実習を心がけたい。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

学生からの相談で、教員の説明を聞かず、班員の理解に頼る学生が一定数いて困っているようである。人数に限られる中、目の届かないこともあるが、作業中に巡回頻度を多くして、そのような学生には注意を与えているものの、目を離すとすぐにまた元の状態・・・今後の課題である。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

個別にあてて説明させたり、態度が改まらず班員に負担をかけている場合は、授業態度を評価点に入れて減点することを実習ガイダンスで伝える。教員がしっかり注意する、など。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

「全員を引き上げる」方針から、「学習意思のある学生の成果を最大化する」方針へ切り替えること。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

次年度の方針なので、翌年に結果を記載する。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

できる限り積極的に研修に参加している。参加できない場合は動画視聴ができるので助かっている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期的な目標：

- 主にティーチングスキルの更なる改善。
- 関連科目の担当教員と授業内容について相互確認し、無駄な重複や重要な項目の脱落がないようにする。
- 学生の理解を助けるe-Learning コンテンツの作成（実習手技の動画の充実）

長期的な目標：

- 微生物学分野における麻布大生のコンピテンシーと質をさらに高める。学生が大学で受けた専門教育を基に、いかなる職業であっても、自主的に課題や問題を見出し、解決する能力を育てる。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

e-Leraningコンテンツは担当科目の学理ページに全てアップしているので、そちらを参照ください。